

キリの接木について

所長 中 元 六 雄

キリの接木は、接木交雑を最終目標として行っているが、これは単にキリの接木についての報告である。

1. 穂木貯蔵による接木

台湾桐に会津桐を接いだきりは、当所報告 No. 4 で、両者の中間の種々の形質をあらわし、成長よく、耐寒性に富むと故野崎薫氏は発表した。本計画はそのような台湾桐と会津桐の接木個体の増殖にあつた。

場 所 福島県東白川郡塙町台宿 当林業指導所附属苗畑

接木本数 台湾桐×会津桐 80本

台 木 当所附属苗畑産 苗長0.50~1.20m, 根本直径15~40mm

植付年月日 33年4月26日

接 穂 当所所在地の霜重信雄氏所有 5年生会津桐20本の枝梢より採取、穂の長さ約60cm

採穂年月日 33年2月16日

接穂の貯蔵 水排けのよい日陰地を60cmの深さに堀り、採取した枝梢を炭俵に包み、約45cm厚さに覆土して貯蔵

接木年月日 台木の芽のふくらんだ33年5月4日(里桜の咲く頃)

接穂の調製 穂木は2~3節をつけて管切る。大体60cmの枝条から梢端の数節を除き、健全な芽をつけたもの2本、まれに3本が截取できる。

大体長さ20cm, 直径15mmである。

接木の方法 台木は地上約5cmのところを鋸断し、台木の大きさに応じ、大きいものから剝接、切接及割接をおこなつた。接穂は予め接木蠟を浸込ませた1.5cm巾の布片で3~5回捲いて緊縛固定し、台木の切口は接蠟に浸した布片で被い、接木後台木断面より10cm位の厚さにまんじゅう形に土を盛つて乾燥を防いだ。

一節が土の上に僅に表われる程度である。

(1) 剝接法 台木の比較的大きなものに用いた。接穂は下端を切断面が3cmの長さになるよう接木用小刀で斜に切り、その切断面周辺の皮0.5cmを削ぎ落し挿入をたやすくできるよう調製した。鋸断した台木のなるべく平らな面の皮に長さ2cmの切口をつけ、これを中心に僅に剝皮したところへ、接穂を静に2cm以上の深さまで挿込み結縛した。

(2) 切接法 接穂は前同様下端を斜断し、僅に切返して調製した。台木は僅かに木部をかけて切

下げ、穂を挿込み、切下げた部分で被うて縛った。

(3) 割接法 台木が接穂と略同径のものに用いた。接穂は下端を楔形に調製し、台木は略、中央を小刀で僅に切り、そこへ接穂を強く割込ませた。

その後の管理、盛った土は接木1日後の5月15日に大半をとり除き、台木の芽掻きをおこなった。その後は見廻りごとに芽を掻いた。萌芽は2節4芽から出るので、6月上旬に1芽に整理した。

成績 80本施行したうち、割接ぎした2本が枯死しただけなので活着率は98%である。

第1表 穂木貯蔵による接木成績

接ぎ方	接木本数	活着本数	活着率
	本	本	%
剝接	35	35	100
切接	25	25	100
割接	20	18	90
計	80	78	97.5

2. 穂木貯蔵なしの接木

これは接木による3つ枝桐の増殖を目的としたもので、台木×穂木は

(1)三葉×三葉、(2)二葉×三葉、(3)三葉×二葉の剝接各5本、(4)三葉×三葉と(5)二葉×三葉の寄接

ぎ、1法、(6)三葉×三葉と、(7)二葉×三葉の寄接ぎ2法各2本をおこなった。

場所、接木月日、方法及びその後の管理は前と同じく、台木及接穂は当所生産の会津ぎりの苗木である。接穂は接木4日前台木の梢端部からとり土を薄くかけておいたものである。

寄接1、2法は接木しようとする苗木を接近して植付け、1法は地上約40cmのところ

第2表 とり接ぎによる接木成績

種類	接木本数	活着本数		活着率
		5月15日	6月20日	
	本	本		%
三葉×三葉	5	4	0	0
二葉×三葉	5	5	2	40
三葉×二葉	5	3	2	40
計	15	12	4	26.7

る)ものであり、2法は台木を地上約20cmの高さで斜断し、接穂となるきり苗の剝皮部に突込み結縛した(癒着後接穂となるきり苗はその部分から切離す)ものである。

その成績は、盛土を取除いた5月15日には第2表の通り相当接着したか

にみえたが、完全に癒着しないためその後枯損した。寄接1、2法では2法で僅に1本接着しただけであつた。

3. 摘要及考察

(1) 穂木を休眠中にとり貯蔵して、台湾ぎりに会津ぎりを80本接いだところ78本接着し、98%の活着率であつた。

(2) 台木の大きさにより、剝接35本、切接25本、割接20本のわりでおこなつたのであつたが、剝接及切接は100%、割接は90%であつた。

- (3) 穂木を貯蔵せず，とり接ぎしたものは接着不良で15本のうち僅に4本活着したに過ぎなかった。
- (4) 以上より，きり接木の要諦は穂木の貯蔵にあり，これさへすれば極めて容易で，接ぎ方にはよらないようである。